歴史・伝統文化

市の移り変わり

1　干拓地の造成

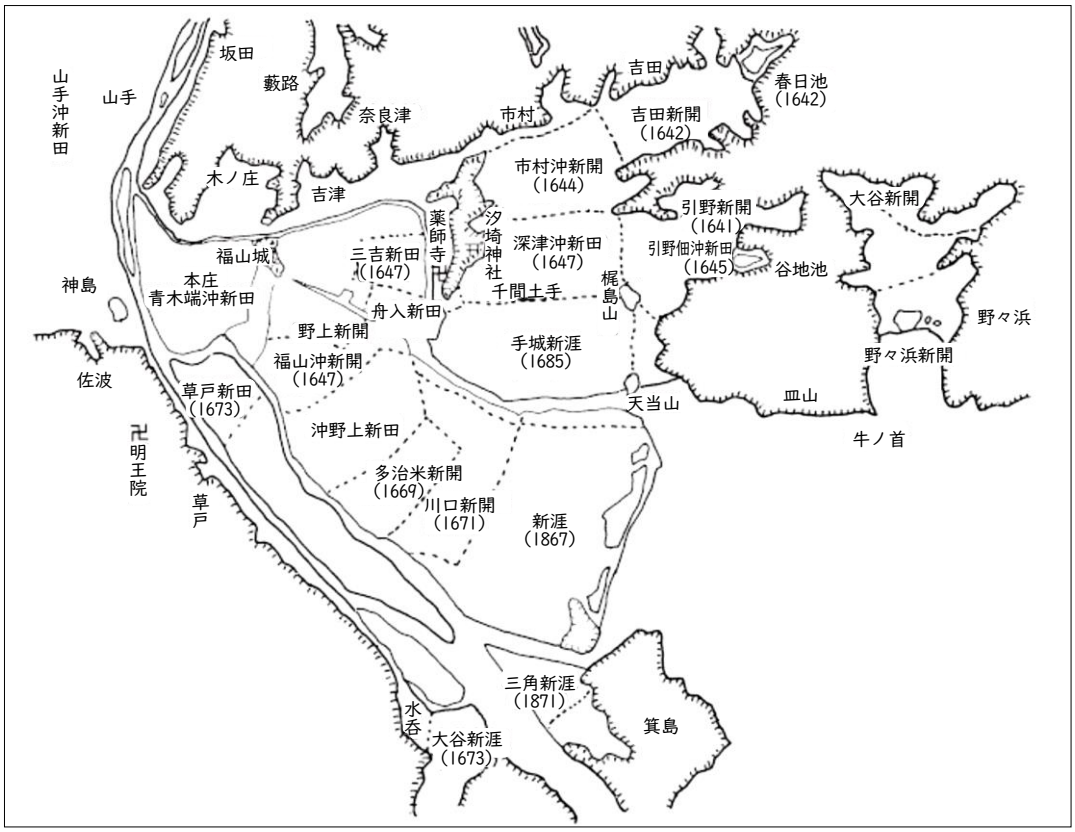
現在の新涯町付近は，今から約１５０年前に，福山藩が米の生産量の増加を目指し，海を干拓した土地です。

瀬戸内海に注ぐ，芦田川河口に近い遠浅の海岸線に注目し，現在の川口町の南北から堤防を延ばし，海の中に大きな囲いを作りました。そして，囲いの中の海水を干し，新しい土地を造成しました。その広さは３２０ha ありました。

この干拓工事には毎日約６００人の人が１６０隻の石船や砂船を使い，３年の時間を費やしたようです。

１８６７年（慶応３年）６月２６日の大潮の日，干潮の午後１時，大勢の見物人が見守る中，約２５００人の力により最後の堤防が閉め切られました。（汐留）

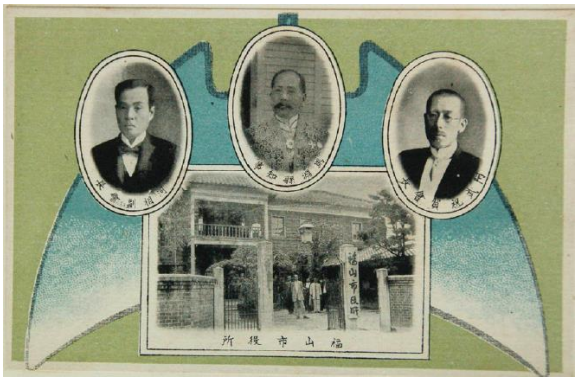
このようにしてできた干拓地を“大新涯”と呼び，現在の町名は，新涯町・曙町・一文字町・卸町・新浜町などとなっています。



〔福山藩による干拓〕

２　市域の拡大と中核市移行

（１）　市域の拡大



〔市制施行記念はがき〕

１９１６年（大正５年）７月１日，広島県下では，広島・尾道・呉についで４番目，全国では７３番目の市として福山市が誕生しました。面積は５．８㎢（東は三吉町，西は西町，南は沖野上町，北は福山城公園まで），人口は３万２３５６人でした。市制施行後は，当時の市域の９割が被害にあった大水害などの困難を乗り越え，上水道の敷設，芦田川の改修などに取り組みました。

１９３３年（昭和８年）に隣接１０か村，１９４２年（昭和１７年）に２か村との合併により市域を拡大しましたが，１９４５年（昭和２０年）８月８日，戦災により市街地の８割を焼失しました。しかし，市民の強い復興意欲と郷土愛によって，翌年から戦災復興事業として土地区画整理事業に着手するとともに，１９５６年（昭和３１年）には隣接１０か町村と合併し，国道などの整備を進め，山陽・山陰と四国を結ぶ産業・文化・交通の拠点都市として急速に成長しました。

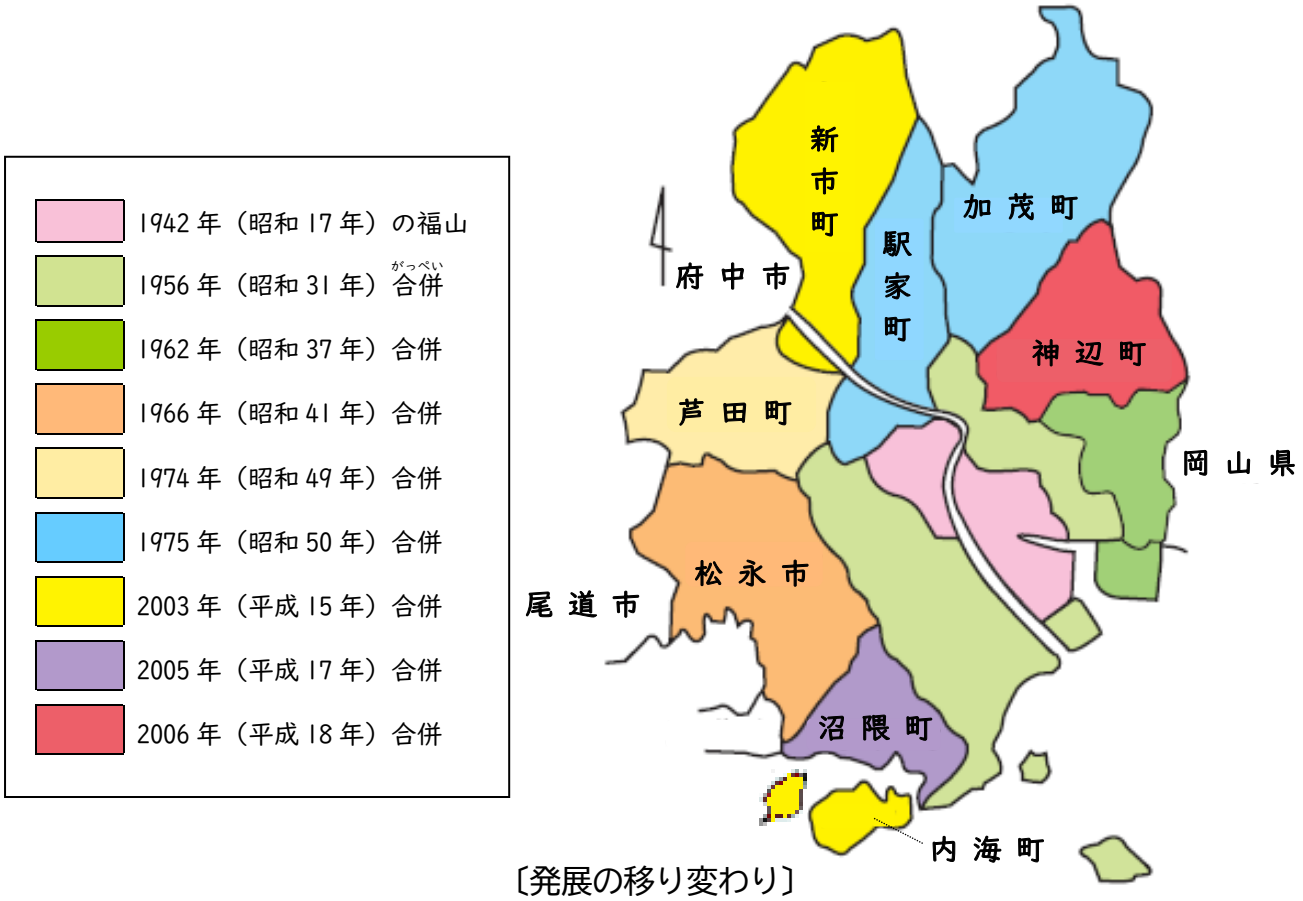
古くから地場の繊維産業を基盤としてきましたが，１９６１年（昭和３６年），世界最大規模の日本鋼管（株）福山製鉄所の立地決定により，重工業主体の産業都市へと転換し，製鉄所操業開始とともに，瀬戸内海の臨海工業都市として脚光を浴びることとなりました。

〔製鉄所ができる前の引野（皿山）沖〕

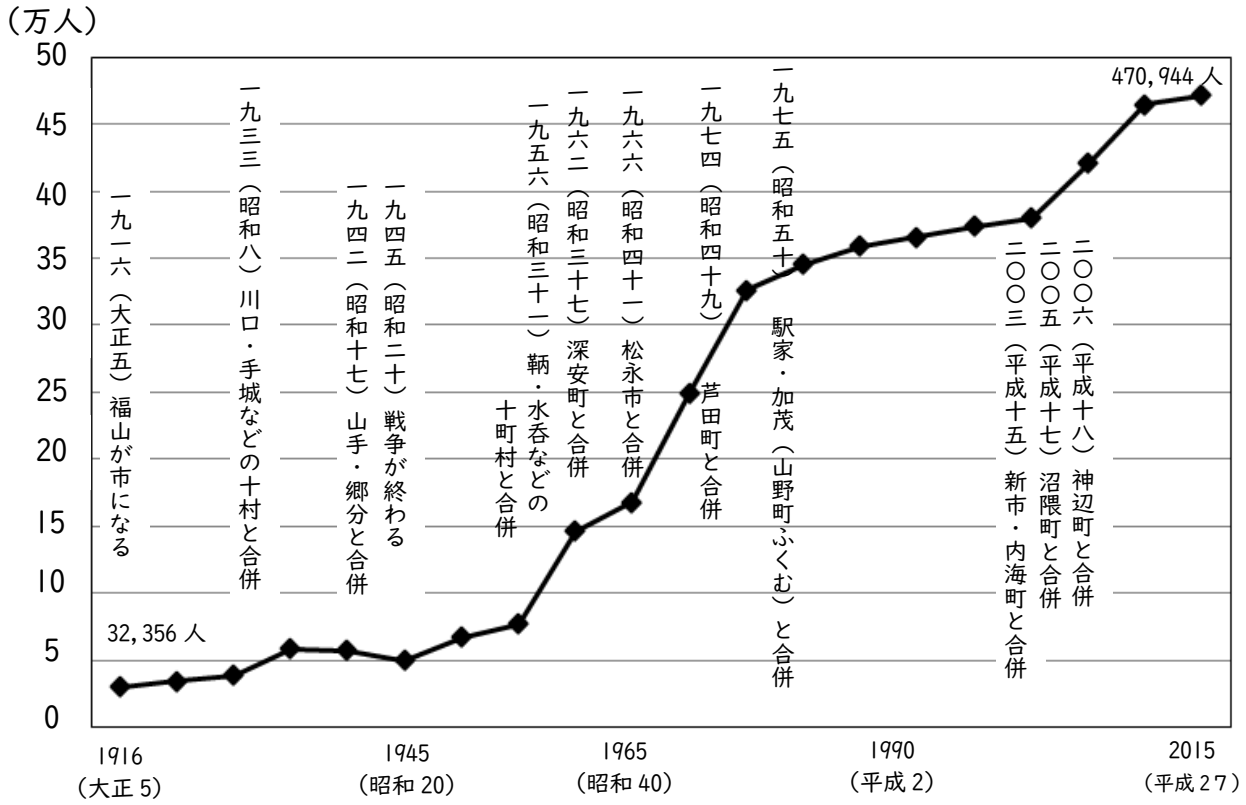
〔埋め立てによりできた工場用地〕

また，近隣地域との一体的発展をめざして，１９６２年（昭和３７年）に深安町と，１９６６年（昭和４１年）に松永市と，１９７４年（昭和４９年）に芦田町と，１９７５年（昭和５０年）に駅家町・加茂町と合併し，市域・人口も拡大・増加し，名実共に備後地域における中核都市となりました。

現在，人口約４７万人，面積は約５２０㎢となり，広島県で２番目，中国地方では４番目の都市規模に成長しています。



〔発展の移り変わり〕



〔人口の移り変わり〕

（２）　中核市福山

福山は１９９３年（平成５年）に福山地方拠点都市地域の指定を受け，さらに１９９８年（平成１０年）４月には，本来，県が行う住民のための行政事務の一部を独自に行うことができる中核市へと移行し，市民サービスの向上と自主・自立のまちづくりを進めています。

地域の人が生活しやすくするための施設

〔東部市民センター〕

健康な生活を守るための施設

〔すこやかセンター〕

文化・芸術・スポーツ・レクリエーションなどを楽しむための施設

〔リーデンローズ〕

〔福山通運ローズアリーナ〕

ふるさと豆知識

中核市が取り扱える主な行政事務

○　保健衛生に関する事務
- 保健所の設置　･飲食店営業等の許可など

○　福祉に関する事務
- 保育所の設置の認可，監督
- 養護老人ホームの設置の認可，監督
- 介護サービス事業者の指定　など

○　教育に関する事務
- 教職員のための研修

○　環境に関する事務
- 一般廃棄物，産業廃棄物処理施設の設置の許可など

○　まちづくりに関する事務

〔福山市保健所〕

〔保育所〕